

I キャリア教育を理解するために

栃木県総合教育センターが、調査研究の一環として、研究協力委員の所属校の先生に対して行ったアンケート調査（平成17年7月実施）では、多くの先生方が、キャリア教育の推進に対して、次の図に示すような期待感をもっていることが明らかになりました。

キャリア教育の推進について、どのようにお考えですか。

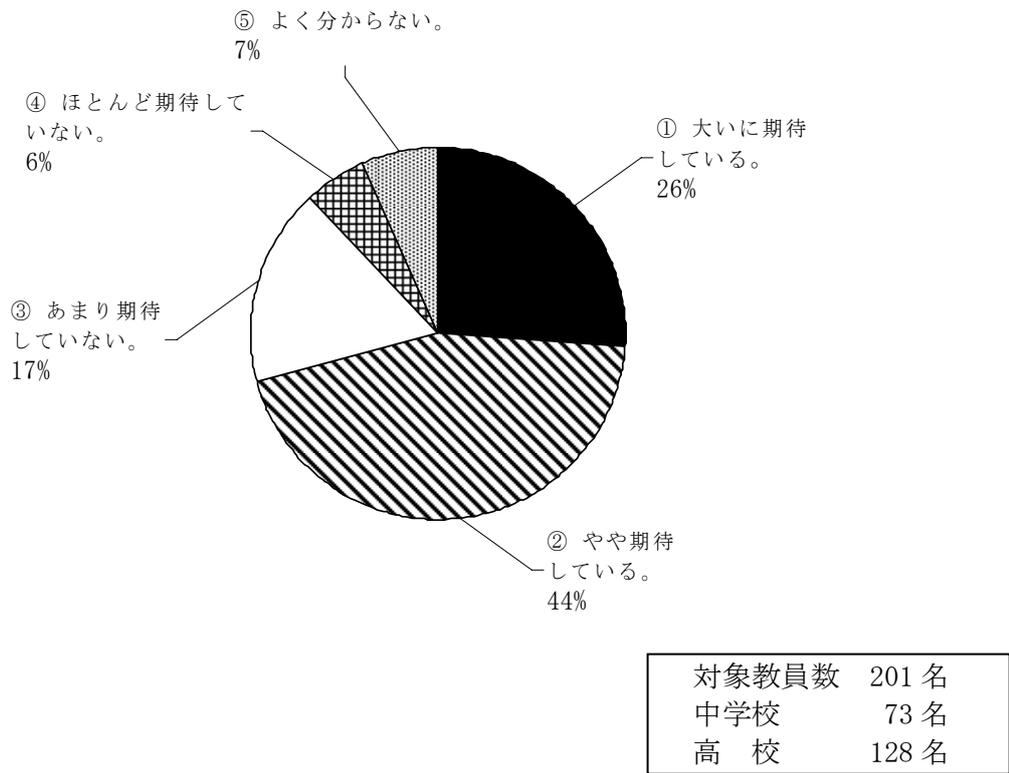


図 キャリア教育に対する期待

しかし、このような期待の声がある一方で、学校現場ではキャリア教育という言葉になじみがなく、何から始めたらよいのか分からないなど、不安や戸惑いの声も数多く聞かれます。

■ キャリア教育に対する先生方の声（不安・疑問・課題）

「あまり期待していない」、「ほとんど期待していない」、「よく分からない」の回答の理由

- ・キャリア教育という言葉が分かりにくい。
- ・教員のスキルの向上が必要である。
- ・生徒も教師も多忙な中で、受け入れるゆとりがあるか疑問である。
- ・学校教育ができることには限界があるので、期待できるかどうか分からない。
- ・ベースになる学力に問題があると厳しい。
- ・心の教育など、先に取り組むべきことがあるのではないか。
- ・一人一人に個別に形成される勤労観や職業観にどのようにアプローチしたらよいかは課題である。

キャリア教育の推進と聞くと、「また、別な教育をやるのか」、あるいは「さらに新しい活動を始めるのか」という疑問や不安をもちがちですが、決してそのようなことではありません。

本県においても、職場体験やインターンシップをはじめとして、今までにも地域と連携したすぐれた実践が既に数多く重ねられています。また、各教科・領域で行われている様々な学習活動の中には、キャリア教育という視点でも評価すべき実践が多数見られます。

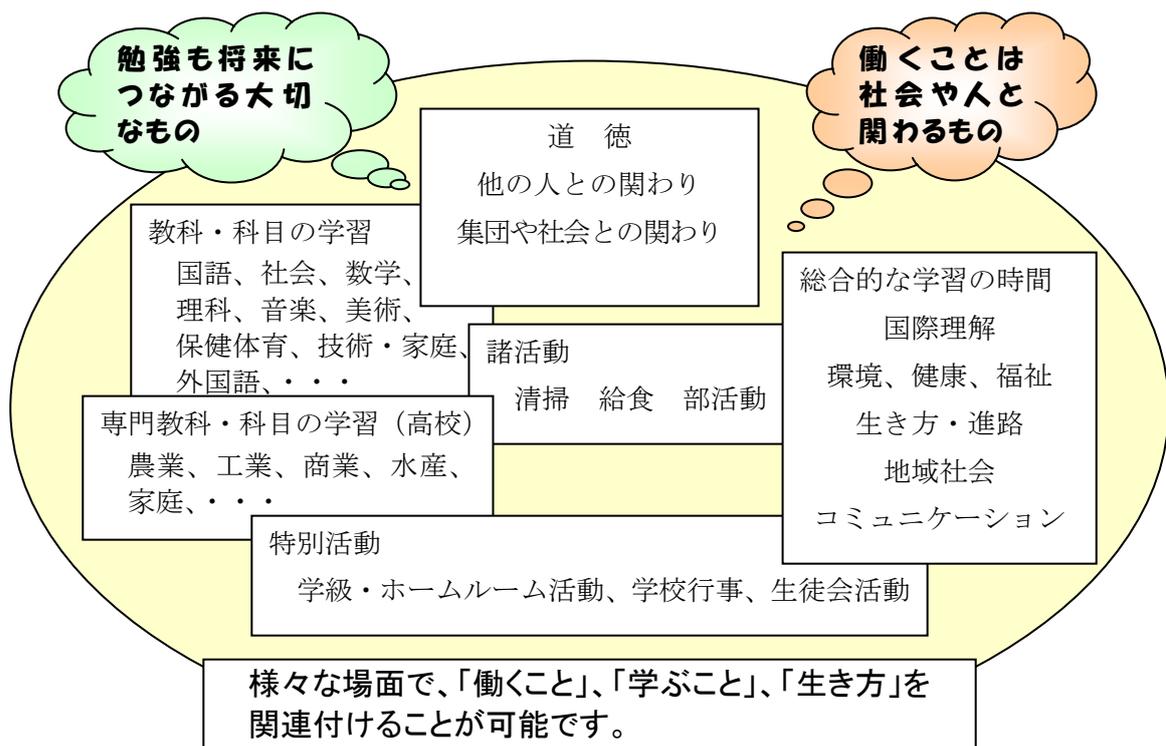
このようなことから、本章では、われわれ一人一人が、現在の取組をベースにして、実践の第一歩をどのように踏み出したらよいか、そのポイントを四つのQ&Aで解説します。なお、それぞれのQ&Aには、あわせて関連する事例を示しています。

Q1 キャリア教育とはどのようなものか？

A1 小学校段階から、様々な教育活動を通して、一人一人の児童生徒にふさわしい勤労観や職業観を育成しようとする考え方です。

- 学校の教育活動全体がキャリア教育の範囲です。中学校や高校では、進路指導や職業教育を中核にして推進します。
- 様々な教育活動を通して、勤労観や職業観の形成の基礎となる具体的な意欲や態度、能力を育成しようとする視点をもつことが重視されます。

日々の教育活動には、児童生徒に「働くこと」、「学ぶこと」、「生き方」を関連付けて意識させる場面がたくさんあります。学級の係活動や学校の児童会・生徒会の活動にどのように関わるか、あるいは、授業にどのように臨むかといったことまで、キャリア教育の視点でそれらの意義を再確認することが大切です。



事例紹介

ここでは、キャリア教育の視点から日々の教育活動の意義を再確認するために、三つの事例を紹介します。

事例1〔中学校〕生徒会の福祉活動の一環としてボランティア体験を実施

この中学校では、生徒会の福祉委員と希望者が、地域の高齢者福祉施設を訪問して、体験学習を行っています。

■ この活動のねらいは？

- ・この体験を通して、他者理解と同時に自己理解が深まると考えられます。
- ・家庭や地域の一員として、社会的な役割を果たそうとする態度の育成が期待できます。
- ・自分たちにどのようなボランティアができるかを考えたり、アイデアを出したり、工夫して取り組んだりするなど、主体的に課題に取り組もうとする意欲や態度の育成が期待できます。

■ この活動を通して育成された能力や態度は？

体験的な活動からは、指導者側が意図しない成果が得られることも多々あります。次の、「参加した生徒の感想からの抜粋」のように、生徒は福祉施設などで働く人々から、多くのことを学んでいることがうかがえます。この生徒以外にも、体験を通して勤労の意義や働く人々の様々な思いに気付いたり、自己の職業に対する適性に気付いたり、働くことの意義や職業の社会的な役割などに対する理解が深まったりするなど、様々な生徒の反応を読みとることができました。

[参加した生徒の感想からの抜粋]

- ・(耳の不自由な方との筆談を通して)私は「ありがとう」という言葉をこんなにうれしく思えたのは本当に久しぶりでした。この何気ない言葉がこんなにうれしい気持ちにさせてくれることを気付かせてくださった方にとても感謝しています。
- ・(ヘルパーの方の仕事ぶりから)私たちの気付かないところにも気がつかって、しかも素早く対応できるところはさすが経験者だなと感じました。
- ・(福祉の道に興味をもって参加して)ヘルパーの皆さんは、きっとつらいことも悲しいこともたくさんあるのだろうが、お年寄りといるときはいつも笑顔で接している。これも老人ホームでのマナーなのかもしれないと思いました。
- ・(仕事のよこごびを教えられて)あるヘルパーの方が、私たちに向かって「おばあちゃんかわいいでしょ。この笑顔にだまされちゃうのよね。」とうれしそうに話していました。私もこの笑顔にかえられるものはないと思い、心の底からうれしさがこみ上げてきました。

高齢者との関わりから気付くことに加え、働く人々との関わりを通して気付くことについても、生徒の感想の中に数多く見られました。

■ 今後の展開は？

地域の人々とのふれ合い活動を軸に、中学生として自分たちができる活動を考えて実践できる場や機会をつくっていきます。

事例2〔中学校〕給食当番の分担を長期間固定させた取組

この中学校のある学級では、従来は週ごとに交代していた給食当番を、生徒会や学級の委員と同じように、希望者を募って長期間担当させました。

■ この活動のねらいは？

学校や学級などの集団の中には様々な役割があり、それらを誰かが分担しなければなりません。全員に同じ役割を経験させて、責任を果たす意義を感じさせることも必要ですが、生徒一人一人の意欲を生かして集団を活性化することも大切です。必ずしも、生徒の希望だけで役割分担を調整することはできませんが、この事例では、前年どおりの決め方にこだわらず、日常生活における役割の意義をとらえ直すきっかけとしています。

■ この活動を通して育成された能力や態度は？

働くことには、お金を得ることだけでなく、集団や社会に対して貢献したり、ある役割を果たしたりする側面もあります。係活動を長期間担当することで、役割を遂行するためのスキルが高まり、集団の仲間から信頼されるようになります。また、自ら進んで担当した係活動を通して手応えを感じることができると、意欲がさらに高まって、自らの役割の重要性を理解しようとする態度が育まれると考えられます。

事例3〔高等学校〕コース選択のための模擬授業

この高校では、次年度の希望コースで実際にどのような学習をするのか体験するため、各科目の模擬授業を受講させる取組を行っています。

・学習科目のガイダンス、模擬授業（本校教員）・コース別講演会（外部講師）

■ この活動のねらいは？

多くの普通科や総合学科では、2年次以降のコース選択がその後の進路選択に大きく関わります。この事例は、選択しようとするコースや科目で学ぶ内容を実際に体験させるねらいがあります。

■ この活動を通して育成された能力や態度は？

将来の生き方と現在学んでいること、さらにこれから学ぼうとすることを、生徒が具体的に関連付けることができる体験となっています。将来設計をしたり、よりよい選択をしたりする能力や態度の育成が期待できます。

事例から学ぶこと

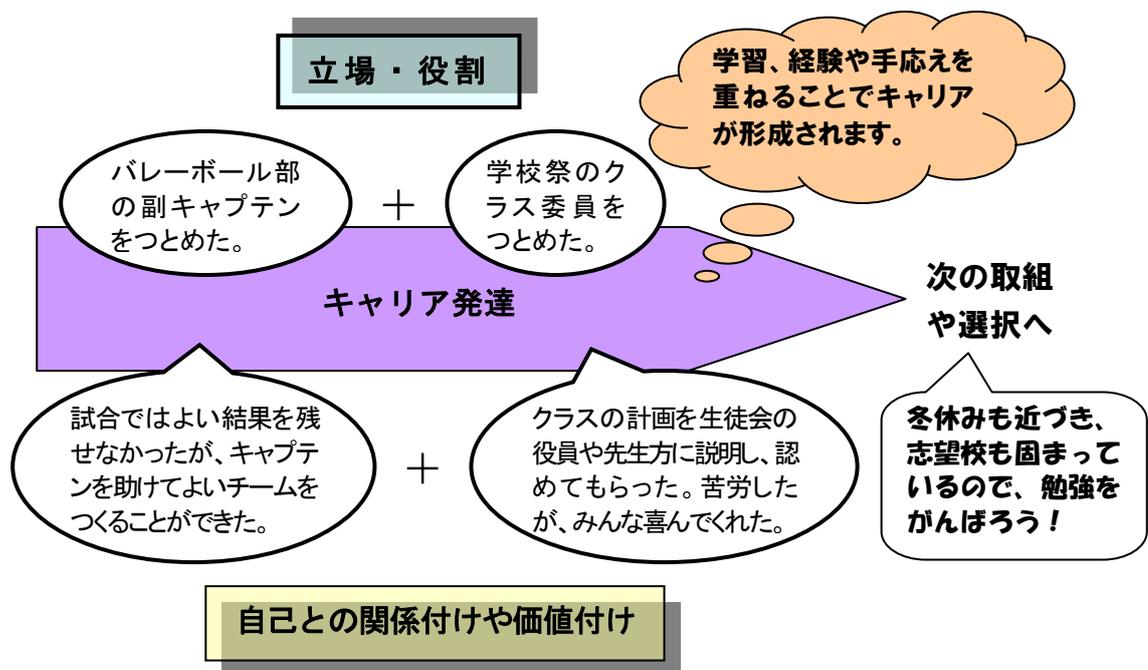
キャリア教育では、生き方や進路選択・決定に関わる能力や態度を幅広くとらえ、様々な機会を生かしてそれらを着実に育成していこうとすることが大切です。

解説1 「キャリア」のとらえ方

キャリア教育では、個々人が成長する過程で経験する立場や役割、周囲のものごとや人間関係に着目します。「キャリア」とは、個々人がこれまでに累積してきた経験やものの見方、考え方などの全体を指すものです。

キャリアは、自分の生き方や進路を決定しようとするときのよりどころとなる大切なものであり、職業観や勤労観の基盤となるものと考えられます。

イメージ図 キャリア発達のプロセス



◆ キャリア教育はキャリア発達を促すもの ◆

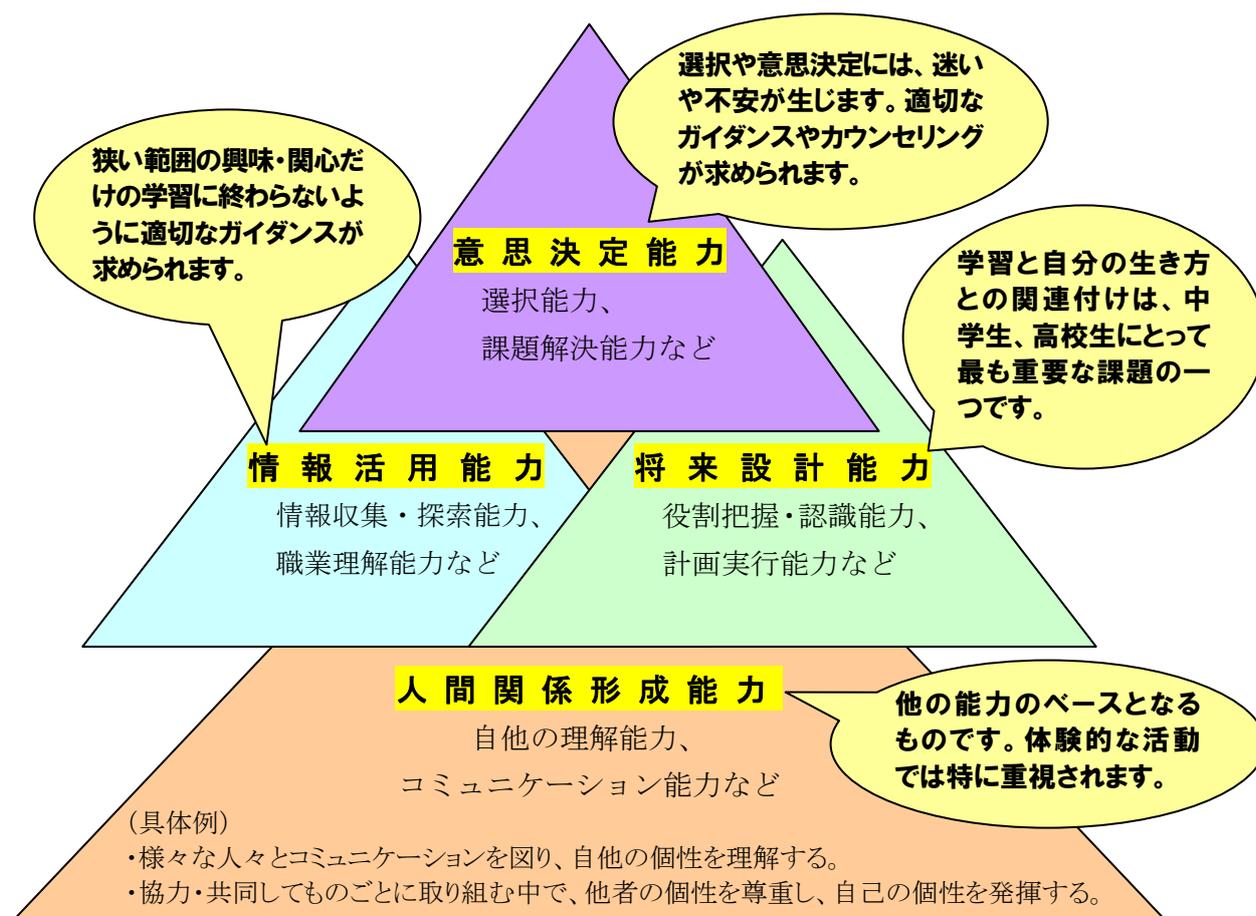
キャリアは、一人一人が成長し、様々な経験を重ねる中で変化していくものです。また、望ましい勤労観や職業観を育成するためには、集団の中で他者と関わりながら、それぞれにふさわしいキャリアが形成されていくことが必要です。小中高の段階は、学ぶ基礎をつくる時期であるとともに、キャリア発達の基盤づくりの大切な時期と考えられます。

Q2 キャリア教育で育成を目指す能力や態度とはどのようなものか？

A2 代表的な例として、「人間関係形成能力」、「情報活用能力」、「将来設計能力」、「意思決定能力」などがあります。

- 実際の活動の場面では、これらの能力を目標や評価の観点として用います。
- 育成を目指す能力や態度は、具体的に記述する必要があります。その際には、先行研究などの例を参考にするとともに、自校の児童生徒の活動の様子や自己評価の結果をもとに作成します。

イメージ図 キャリア教育で育成を目指す能力や態度



※ 国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について(平成14年11月)」に、詳細な具体例が示されています。(p.23、24の表)

事例紹介

ここでは、キャリア教育推進の柱の一つとなる職場体験を事例として取り上げて、育成を目指す能力や態度を、実践にどのように位置付けるかということについて説明します。

事例4〔中学校〕育成を目指す能力や態度を目標や評価の観点として活用

この中学校では、職場体験を通して育成を目指す能力や態度を明確にし、生徒に活動させています。また、自己評価の観点も明確にしています。

■ この活動で生徒に期待することは？

体験的な活動は、抽象的な目標のまま実践しがちです。また、前後の活動との関連が希薄で一過性の体験に終わってしまうなどの問題点が、これまでも指摘されています。ねらいや評価の観点を明確にすることで、全員に気付かせたい点をはっきりするとともに、各自が活動を通して気付いたり、理解したりすることで内容の深まりが期待できます。

○ 従来の進路指導の目標

・・・勤労の喜び、厳しさ、すばらしさを実感し、幅広い勤労観や職業観を形成する。

(「感想」から一部抜粋)

- ◆ 貴重な体験ができて、いい勉強になりました。
- ◆ 製品をうまくつくることができてよかった。

「感想」という項目でも、様々な気付きや発見が期待できますが、必ずしも学んで欲しい観点到に目が向かないこともあります。

人間関係形成能力の観点から項目を設定することで、全員が振り返れるようにしています。

○ キャリア教育の視点で明らかにした「育成を目指す能力や態度」

人間関係形成能力の活用とその向上を目指す。

(具体例)

- ・働く人々とのコミュニケーションの充実を図る。
- ・働く人々がそれぞれの立場で、どのようにチームを組んで、互いに支え合っているか理解する。

(「職場のチームワークや人間関係などについて気付いたこと」から一部抜粋)

- ◆ 機械を扱う仕事に興味をもていましたが、作業の前のミーティングがとても重要だと感じました。
- ◆ 病院は、お医者さんや看護婦さんだけでは成り立たないということをいままで考えていませんでした。

事例から学ぶこと

発達段階に応じた勤労観や職業観を身に付けさせるためには、育成を目指す能力や態度の重点化を図るとともに、それらに対応するように活動のまとめの課題や自己評価の項目を設定することが大切です。漠然と感想を書かせるだけでなく、具体的な項目を示して書かせることも必要です。

解説2 キャリア発達に関わる能力や態度(中学生・高校生の意識から)

若者の職業人としての基礎的資質・能力の低下など、キャリア発達の遅れを指摘する声はこれまでになく大きく、キャリア教育が社会から求められる背景ともなっています。

次の調査の質問は、将来の進路選択や生き方に関わる様々な事柄に対して、得意であるか、苦手であるかを聞いたものです。各項目は、キャリア教育において育成を目指す能力や態度と対応させています。

この調査結果から、キャリア発達に関わる能力や態度の面について、中学生や高校生の意識の特徴を読み取ることができます。

【 質 問 】

あなたは、下の①から⑩の項目について、得意ですか、それとも苦手ですか。それぞれの項目について、次の4、3、2、1のうちから最もあてはまるものを選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------|----------------|
| 4 得意である | 3 どちらかという得意である |
| 2 どちらかという苦手である | 1 苦手である |

[項 目]

- ① 新しい環境や人間関係に慣れること
- ② リーダーとしてグループをまとめること
- ③ リーダーを助けたり、グループの仲間と協力したりすること
- ④ 身近な人々の仕事を理解すること
- ⑤ 進路に関する情報や資料を集めること
- ⑥ 勉強、係活動、部活動などの内容に、おもしろさ、やりがいを見付けること
- ⑦ 自分が将来どんな仕事につきたいか考えること
- ⑧ 自分がどのような仕事に向いているか理解すること
- ⑨ 希望の進路を実現するため、学習計画を立てたり、目標をもって生活したりすること
- ⑩ 10年後や20年後の自分の人生や生き方を考えること

中学生

高校生

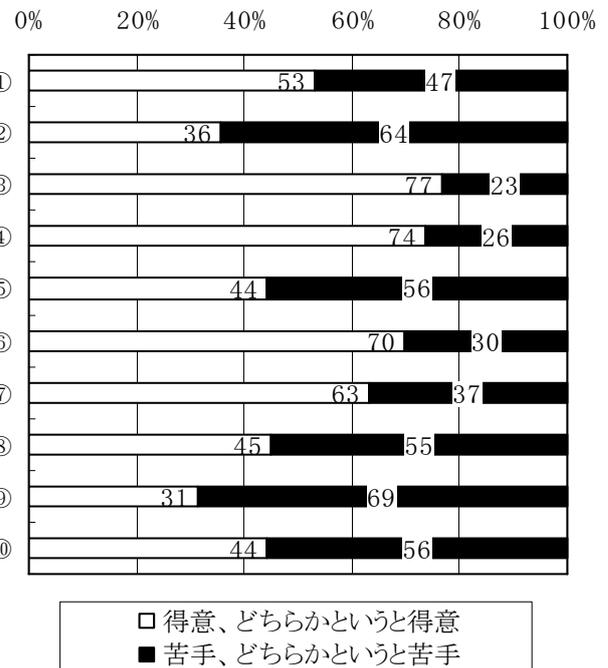
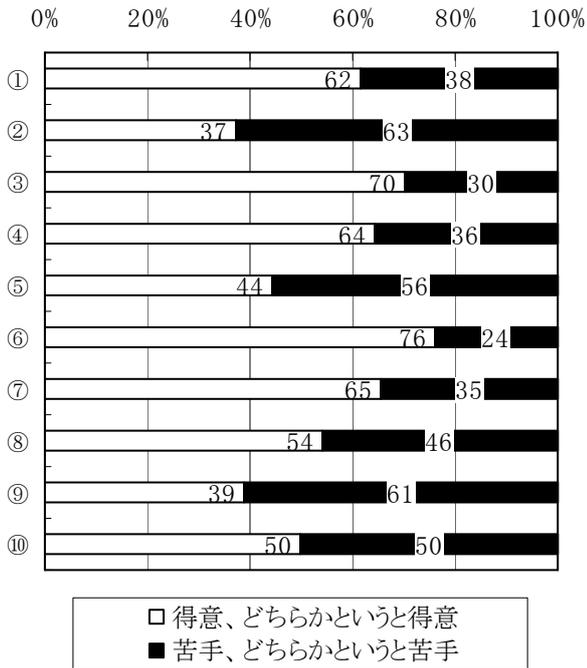


図 将来の進路や生き方などの事柄に対する「得意」、「苦手」の度合い

進路に関する調査（平成 17 年 7 月、栃木県総合教育センター）より
 中学生 899 名（男 447、女 452）、高校生 869 名（男 201、女 668）、合計 1768 名

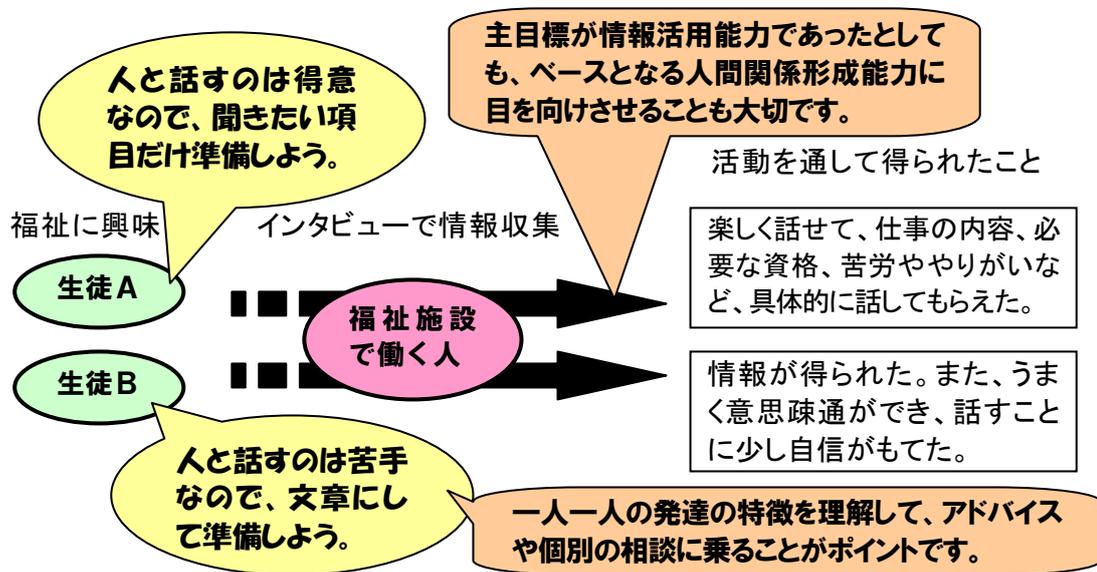
◆ 調査結果から分かること ◆

「⑥勉強、係活動、部活動などの内容に、おもしろさ、やりがいを見付けること」や、「⑦自分が将来どんな仕事につきたいか考えること」などに対しては、中学生、高校生とも、「得意」あるいは「どちらかという得意」と感じている生徒の割合が高い傾向が見られます。一方、「②リーダーとしてグループをまとめること」、「⑤進路に関する情報や資料を集めること」、「⑨希望の進路を実現するため、学習計画を立てたり、目標をもって生活したりすること」などのように、積極的あるいは主体的に取り組むことは、「苦手」あるいは「どちらかという苦手」と感じている生徒の割合が高くなっています。また、高校生では、「⑧自分がどのような仕事に向いているか理解すること」をどちらかという苦手と感じる生徒が多く、自他の理解の点でも課題があることがうかがえます。

解説3 キャリア教育が育成を目指す能力や態度のとらえ方

キャリア教育の実践では、活動のねらいを明確にするため、いくつかの能力に力点を置いて指導する必要があります。ただし、人の能力の発達は複合的なものであり、一人一人の児童生徒の中では、各能力は相互に関連しながら育つという考え方に立って指導・支援にあたることが大切です。

イメージ図 働く人に対するインタビューを通して能力や態度が育成される様子



体験活動を通して人間関係形成能力に自信を付けるとともに、情報活用能力も高めている例

◆ 人間関係形成能力は様々な能力や態度の育成に関わるもの ◆

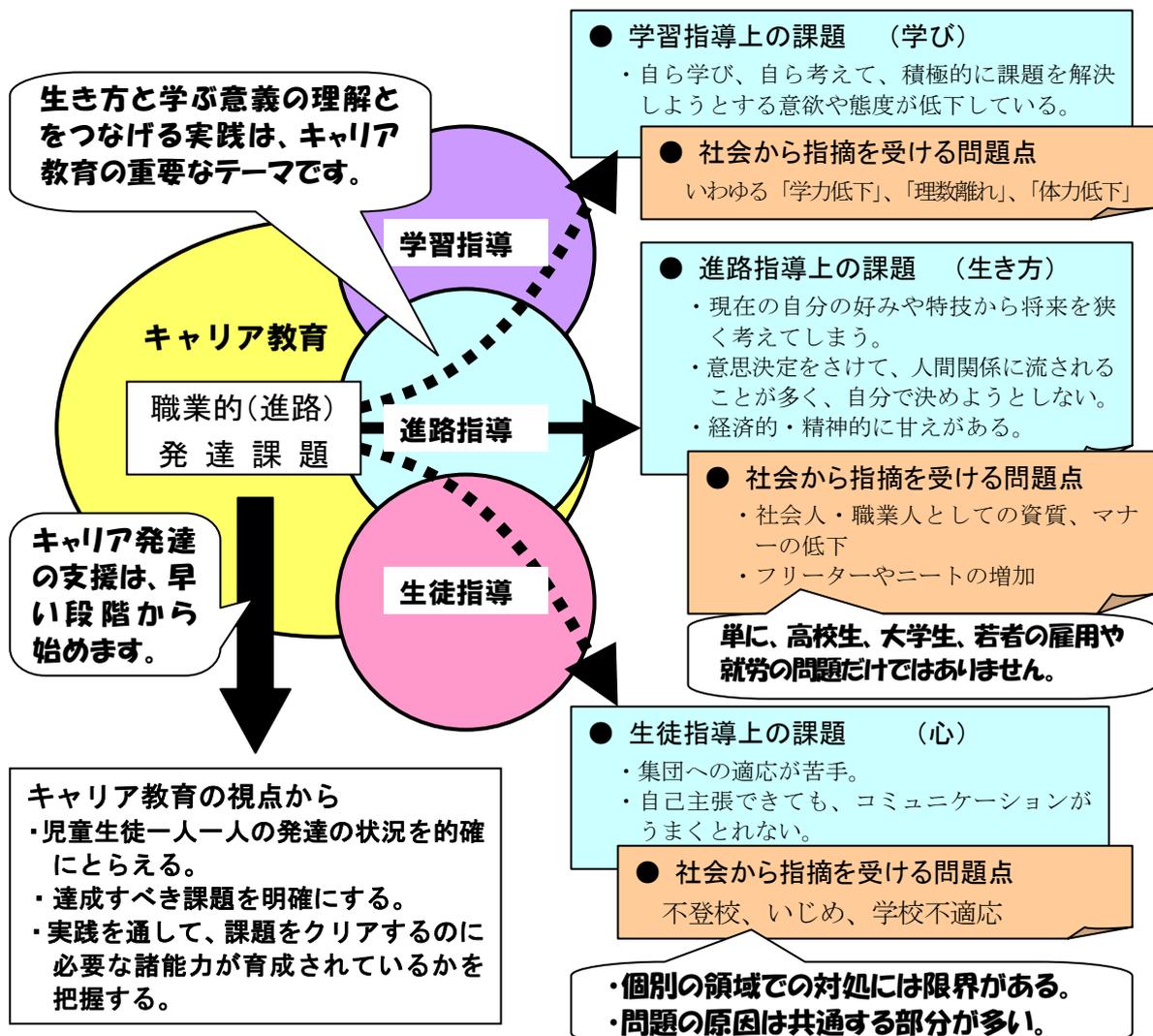
コミュニケーション能力をはじめとして、よりよい人間関係を築くための資質や能力は、社会人あるいは職業人として生きていくための基盤となるものです。小さなことでもかまいませんから、様々な活動を通して、人間関係に自信を付けさせていくことが大切です。また、あいさつや日常生活における基本的なマナーを指導する際には、相手や場に応じた振る舞いや、その人らしさを表現させることも重要です。

Q3 なぜ、小学校段階からキャリア教育に取り組む必要があるのか？

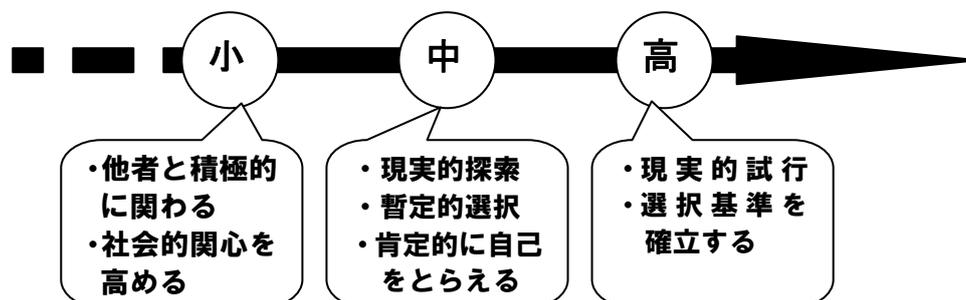
A3 近年、「フリーター」や「ニート」の増加に代表されるような、若者の働くことに対する意識や行動の変化は、児童生徒の発達をめぐる問題であると考えられます。

このような問題に対しては、高校や大学の進路指導の充実だけでは対処できません。小・中・高の連携を意識した体系的なキャリア教育の取組が求められています。

イメージ図 キャリア教育の視点と諸課題のとらえ方



■ 小中高の連携を生かしながら、生き方や進路選択・決定をめぐる、どのような課題をクリアしていかなければならないのか？



学校段階別の生き方や進路をめぐる発達段階と発達課題の特徴

学校段階	小学校段階	中学校段階	高等学校段階
発達段階の特徴	生き方や進路を探索・選択をするための意欲、能力や態度の基盤をつくる時期	生き方や進路について現実的に探索して、暫定的に選択しようとする時期	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期
自他の理解に関する発達課題の特徴	自己及び他者への積極的関心の形成・発展 (具体例) ・自分の気持ちと他者の気持ちの双方を理解しようとする。	肯定的自己理解と自己有用感の獲得 (具体例) ・他者との関わりの中で、自分のよさに気付くことができる。	自己理解の深化と自己受容 (具体例) ・他者との関わりの中で、自分のよさ、欠点を含めて、個性として受け入れることができる。
人間関係形成能力			
働くことや職業選択に関する発達課題の特徴	身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 (具体例) ・働く姿に関心をもち、仕事の種類や内容を理解しようとする。	興味・関心等に基づく勤労観や職業観の形成 (具体例) ・自分の職業に対する興味・関心や志向性などの特徴を理解する。	選択基準としての勤労観や職業観の確立 (具体例) ・自分なりの考えやよりどころを明確にして、職業や進路を選択しようとする。
情報活用能力			
将来設計や進路選択に関する発達課題の特徴	夢や希望、憧れる自己イメージの獲得 (具体例) ・自分があこがれている職業の内容を具体的に言うことができる。	進路計画の立案と暫定的選択 (具体例) ・仕事に就くなど、社会に出るまでの道すじをイメージして、卒業後の進路を決定しようとする。	将来設計の立案と社会的移行の準備 (具体例) ・仕事に就いてから、社会生活を営む自分の姿をイメージして、社会的に自立しようとする。
将来設計能力			
進路の決定に関する発達課題の特徴	勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 (具体例) ・勤労体験や働く人々の姿を通して、社会の中で真剣に取り組むことの大切さを実感して、実践しようとする。	生き方や進路に関する現実的探索 (具体例) ・実際に働く人々の姿をモデルにしなが、将来の職業を選択したり、自分の進路を決定したりしようとする。	進路の現実吟味と試行的参加 (具体例) ・自分が実際に働くことを想定しながら、実際に職業を選択したり、自分の進路を決定したりする。
意思決定能力			

国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書 平成14年11月）」をもとに作成

事例紹介

ここでは、中学生や高校生の発達課題の特徴を踏まえて、自他の理解を促す指導を充実させるための事例を二つ紹介します。

事例5〔中学校〕自己紹介カードの作成

この中学校では、社会体験活動に参加させる際、肯定的自己理解や自己有用感の獲得を重視するねらいから、自己紹介カードに社会体験活動に寄せる期待や、自己PR文を書かせています。

■ **事例の特徴**：「自己紹介カード」の形式を工夫して、単なる所属や立場の紹介だけにならないようにしています。高校や大学でも、履歴書や志望理由書が書けないという悩みがありますが、書き方のガイダンスだけでは指導が十分ではありません。

中学校段階では、他者との関わりの中で自分のよさに気づき、それらを素直に表現しようとする態度を育成することが大切です。社会体験などの活動は、自他の理解を促すチャンスです。

自 己 紹 介	
	○ 事業所名 ○ 氏名 ○ 委員会、部活動、趣味、部活動、特技 など
この体験場所を選んだ理由	興味・関心をもった理由など。 (記入例) 家族が福祉施設に勤めていて、その様子を聞き、関心をもつようになりました。
この職場体験で得たいこと	生徒自身の課題など。 (記入例) 福祉施設で働く人々が、どんな苦労や喜びを感じながら勤めていらっしゃるのか知りたい。
自己PR	※ 例示をあまりせず、できるだけ生徒に考えさせたい。 ※ 「〇〇委員をやっています。」のように、所属や立場の紹介だけに終わらないような書き方をさせる。

事例6〔高等学校〕生活や学習の習慣を振り返るセルフチェックシートの作成

この高校では、これまで身に付けた基本的な生活習慣や、学習に臨む態度などを振り返らせることから、進路学習を始めています。

- **事例の特徴**：「セルフチェックシート」を用いて、自己評価をさせています。小学校や中学校で身に付けたことの意義を再確認させるねらいがあります。

セルフチェックシート

充実した高校3年間にするには**スタートが肝心**です。今日はここ最近の生活を振り返り、これからの高校生活がどうなるか見てみましょう。
日常生活と学習の両面からチェックして、1～3の中であてはまるものを回答欄に記入しましょう。

まずは日常生活から

① 就寝時刻&起床時刻は規則的ですか。
1 規則的である 2 だいたい規則的である 3 規則的ではない

② 挨拶は積極的にできていますか。
1 元気に挨拶できる 2 時々出来ている 3 まだちょっと出来ていない

③ 清掃などの奉仕作業に、積極的に取り組んでいますか。
1 いつも一生懸命 2 時々サボってしまう 3 サボってしまうことが多い

・ (④～⑥省略)

⑦ 1日の時間をどのように使ったかを反省しますか。
1 反省する 2 時々反省する 3 反省しない

次に学習態度について

① 朝の読書は楽しんでいますか。
1 いつも楽しく読んでいる 2 時々楽しく読んでいる 3 読まない

② 文章を書くときに出来るだけ漢字を使うようにしていますか。
1 いつも気を付けている 2 少し気を付けている 3 気を付けていない

◇ セルフチェックシートで感じた、自分の反省点を文章で書いてください。
○ 私の反省点
○ 私の改善案
○ 改めて、高校での目標をたてよう！！
○ 疑問や質問、調べてみたいこと (記入欄は省略)

小学校や中学校段階で身に付けたものを重視します。

高校段階は、自己理解の深化と自己受容が発達課題となります。
◆発達課題を踏まえて、他者と関わる中で、自分のよさ、欠点を含めて、個性として受け入れることができるかに着目させます。

事例から学ぶこと

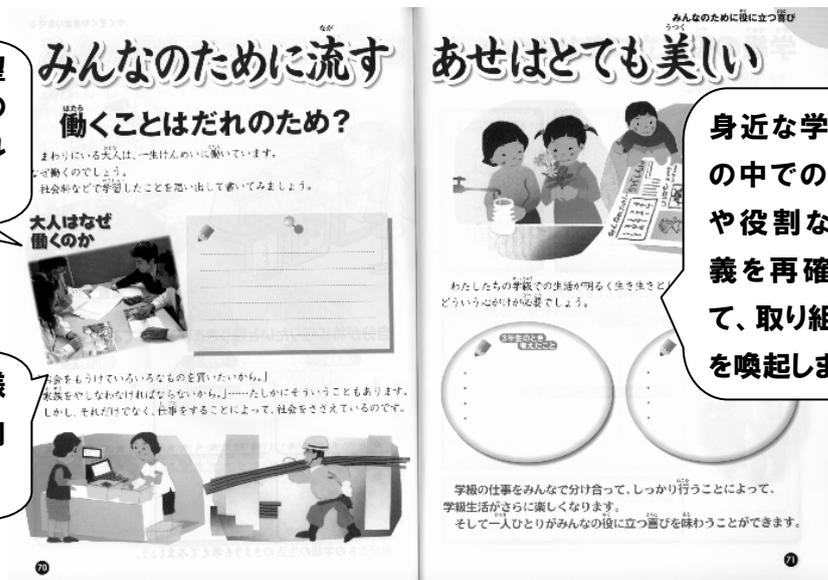
肯定的自己理解や自己有用感に基づいて自他を理解するためには、学習、スポーツ、芸術などの成績や特技の面だけでなく、幅広く日常生活や学校の諸活動を振り返らせて、自分のよさに気付かせることが大切です。また、自他の理解を促すためには、異年齢集団や地域の人々と関わる機会など、多様な人々と関わる活動と関連付けることが有効です。

解説4 児童生徒の発達と勤労観及び職業観のとらえ方

「勤労観」の上に「職業観」が形成されていくという発達上の特徴があることから、小学校段階のキャリア教育では、「勤労観」の育成に力点を置き、幅広く職業の世界に目を向けられるようにしていくことが大切です。そして、中学校、高校段階では、現実の職業世界を受け入れて、積極的に仕事に就こうとしたり、働くことの多様な側面を理解できるようにしたりすることが大切です。

小学校では、望ましい勤労観の育成に力を入れます。

働く意義の多様な側面に目を向けさせます。



(「心のノート」 小学校3・4年より)

◆ 望ましい勤労観、職業観の例 ◆

勤労観や職業観は個々人の価値観ですが、社会や集団で生きていく以上、いわゆる「望ましい」という共通する部分が必要となってきます。

■ 基本的な理解や認識の面

- ・ 職業には貴賤がなく、様々な職業から社会が成り立っている。
- ・ 職務を遂行する際には、規範の遵守や責任がともなう。
- ・ 職業には生計を維持するだけでなく、それを通して自己の能力や適性を発揮して、社会の一員としての役割を果たすという意義がある。

■ 情意や態度の面

- ・ 一人一人の存在やその個性が、かけがえのない価値のあるものである。
- ・ 自己と働くこと及びその関係について総合的に検討を行った上で、勤労や職業に対する自分なりの考え方をもつ。
- ・ 将来の夢や希望の実現を目指して取り組もうとする意欲的な態度をもつ。

解説5 中学生、高校生の「働くこと」に対するイメージ

次は、中学生及び高校生に対して「働くこと」のイメージを記述してもらった結果です。

【質問】

あなたは、「働くこと」について、どのようなイメージをもっていたり、感じたりしていますか。「働くことは、」に続けて、自由に書いてください。

下に「参考にすることば」を例としてあげましたが、それ以外のことばを使ってもかまいません。必ず一文以上書いてください。

- 記述内容を八つの区分（七つのカテゴリーとその他）に分類して、調査対象の全生徒数に対する各区分ごとの回答の割合（%）を示した。
- 一人が回答した文章中に、複数のカテゴリーの内容が含まれている場合、それらすべてを割合に含めた。

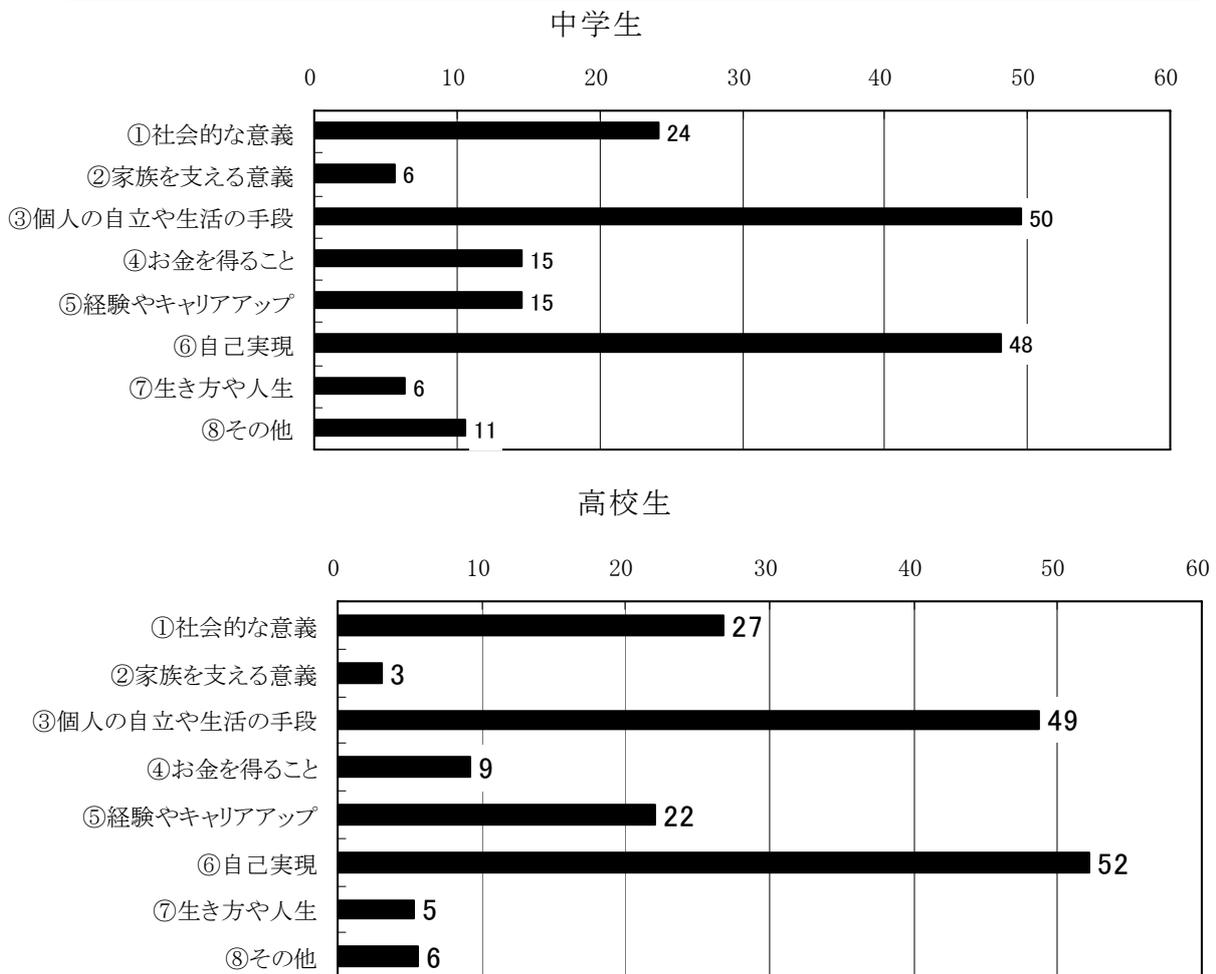


図 「働くこと」のイメージ

進路に関する調査（平成17年7月、栃木県総合教育センター）より
 中学生 899名（男 447、女 452）、高校生 869名（男 201、女 668）、合計 1768名

◆ 調査結果から分かること ◆

「働くこと」に対してもつイメージは、中学生、高校生とも似た傾向です。「個人の自立や生活の手段」と「自己実現」の二つのカテゴリーが50%前後の回答であり、現実と夢、あるいは現実とあこがれの間で、イメージしていると推察されます。

実際の進路選択や職業選択の場面では、この二つだけでなく、「働くこと」の様々な側面を検討して意思決定を行っています。「働くこと」が社会との関わりや人間関係などに触れた回答は、やや少ない結果となっています。

○ 中学生の回答例

① 社会的な意義	人間の義務。働かないと社会はなりたたない。生きることの基本。
	社会に大きく貢献する。仕事はお金をたくさんもらえる。
	最後までやりとげなければならない。
	自分とお客さんとの信頼関係を築く。
	人に夢を与えるためのもの。
	他人を助ける仕事もある。
	仕事をしながら社会の役に立つ。
② 家族を支える意義	家族を支え、よりよい生活をするため。
	夫としての義務を果たし、家族を養う。
	お金があればやさしい明るい家庭ができる。
③ 個人自立や生活の手段	生活に必要な最低限の金銭を稼ぐ。
	働いて得たお金で食べていける。自分のために働く。
	大人になって働いていないとお金がもらえず、なんとなく情けない。
④ お金を得ること	給料をもらえる。
⑤ 経験やキャリアアップ	いっしょけんめい働いて、給料をもらい、その金をやりくりして生活して、社会の厳しさをあらためて実感すると思う。
	実績を残せばランクが上がる職業もある。
	社会に出て自分の立場を自覚する。
	社会を知るチャンスである。
	社会に出て自分をどれだけ試せるかを学ぶ。社会の厳しさを学ぶ。
	トップになって多くの人々たちを自分でまとめていく仕事をできるようにする。
⑥ 自己実現	親がどんな思いをしてお金を貯めているか分かり、親の生き方も学べる。
	ただ辛いだけでなく、厳しくてもやりがいがあって楽しんで自分のためになるものがある。
	自分の人生を左右するもので、やりがいをもたないと一生苦勞する。
⑦ 生き方や人生	日々の生活にメリハリをつける。がんばってお金を得ると達成感がある。
	生活に必要な最低限の金銭を稼ぎ、好きなことをする。
	無業者にならない。
	能力の問題で職選びは自由にできないのでニートが増える。
	人によってはやりたいことがあって仕事にしている人もいるだろうし、お金のためには働いている人もいると思う。
⑧ その他	いい大学に入っていい会社に入った方がよい。
	お金がもらえるけれどつかれるイメージである。
	両親への感謝の気持ちをもつ。

○ 高校生の回答例

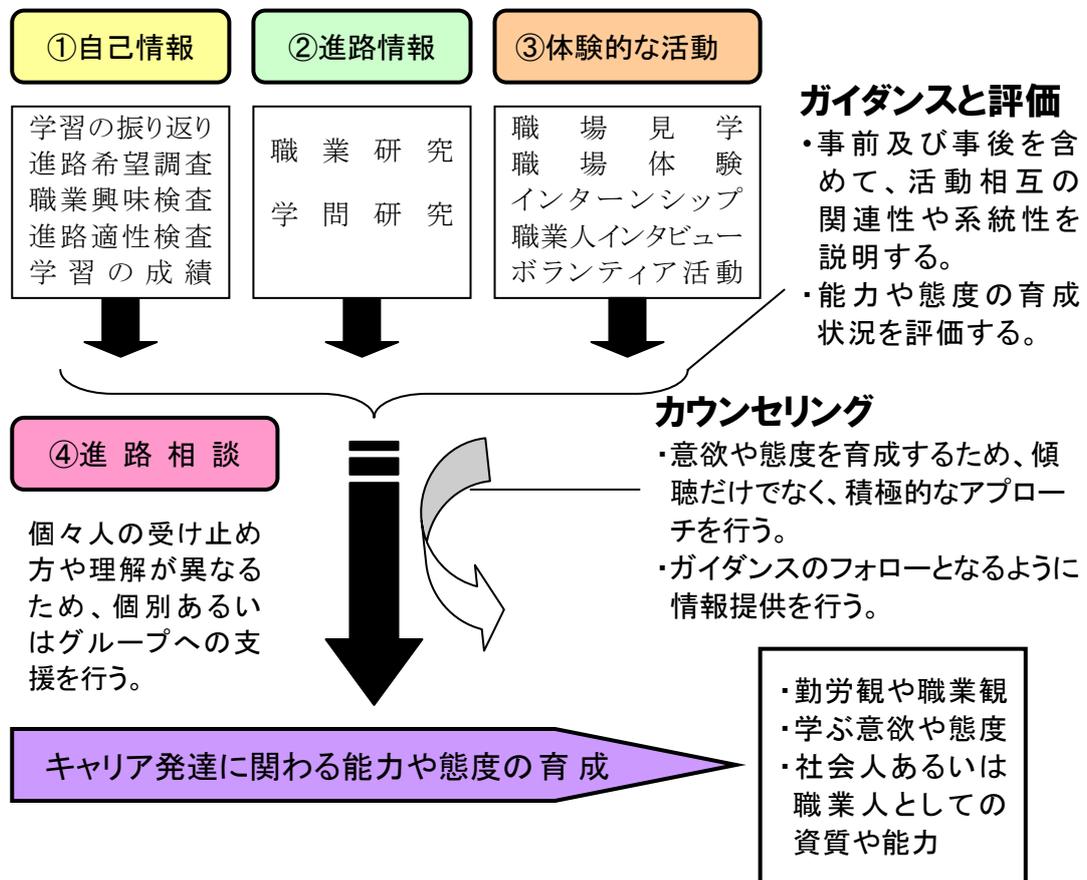
① 社会的な意義	働く人がいなければ、生活できない。一人一人が働いているから今の生活が維持できる。
	国民の義務、権利であり、生きるために必要な金を得る手段である。
	学校と違ってミスをすると会社に迷惑がかかってしまう。
	好きなときに休めず、会社から連絡があって急いで出勤する大変な感じである。
	責任が重く、最後までやり遂げなければならない。
	仕事上でふざけてしまうと、給料が下がってしまったり、解雇されてしまったりするのではないかというイメージである。
	人として社会の役に立つこと。
	社会の中で周りの人と協力して収入を得ること。
	社会人であることの象徴であり、社会とつなぐもの。
② 家族を支える意義	男の人にとっては、家族を養わなくてはいけないため、必要不可欠なことだと思う。
	家計を考えればお金をかせいで家庭を築くことも大切である。
	将来の家庭のためにもお金は必要である。
③ 個人自立や生活の手段	厳しいが働かなければ生活できない。
	金を得て生活を豊かにすること。
	何もしない無気力の状態から抜け出すための方法。
④ お金を得ること	働けば働くほどお金がもらえる。
	お金をかせぐこと以外に仕事をする意味はないと思う。何もしないでお金が手に入るなら仕事をする人はいないと思う。
⑤ 経験やキャリアアップ	生きがい、楽しさ、厳しさ、ルール、マナーを学ぶ。
	社会に出て色々な経験をする。
	学問とは違う「学び」ができる生活を送ること。
	様々な人と出会い、ふれあい、自分をどこまで出せるか、頑張れるか、試すこと。
	楽しさや厳しさの中で自分がどれだけのことができるか試すこともあり、自分がどの仕事に向いているか、知るチャンスをもらえる社会の場である。
	やりたいことを追求してその道の専門家になること。
⑥ 自己実現	自分で働いて自分でかせいだお金を手にしたときうれしくなるもの。
	興味や特技を生かして生活をより豊かにする。
	いろんな人や物と関わりをもち、楽しい生活を送れるようにすること。
	一生をかけてやりたいことを叶える方法。
⑦ 生き方や人生	将来自分の人生に影響していくので大切だと思う。
	人間、少しづらいくらいが幸せなんじゃないかと感じることもある。
⑧ その他	当たり前にする。
	全然知らない人たちと一緒に働くので不安である。

Q4 キャリア教育の視点を生かすことで進路指導の展開はどのように変わるのか？

A4 一人一人の児童生徒の発達に着目して、学ぶ意欲や態度、社会人や職業人としての資質や能力を確実に身に付けさせるために、これまで以上に系統的なガイダンスが求められるようになります。

- 活動の前後のガイダンス、他の活動との関連などを明確にして、『能力や態度』の育成を軸とした学習プログラム」となるようにします。
- 面談などのカウンセリングを、ガイダンスと関連付けて実施します。
- 生徒一人一人の変容を、活動を通して的確に評価し、把握します。

■ キャリア教育の視点を生かした進路指導の展開



事例紹介

ここでは、進路希望調査を生かして、情報提供や進路選択を支援するためのガイダンスや進路相談を展開しようとしている事例を紹介します。

事例7〔高等学校〕ガイダンスとカウンセリングの体制づくり

この高校では、2年次からのコース選択に向けてガイダンスを充実させるために、進路希望調査票の形式を工夫したり、個別のフォローのための相談の機会を計画的に設定したりしています。

■ 事例の特徴：進路希望、進路設計、レディネスの把握

「進路希望」は希望先だけでなく、どのような考えをよりどころにして判断しているかを知ることが大切です。「どのような情報が不足しているのか」あるいは「どのようなことで判断に迷っているのか」などを把握することで、効果的なフォローが可能となります。また、次の段階のガイダンスの留意点も明らかになります。

① 調査票

進路希望調査 (平成17年9月実施)	
□年	□組
□番	氏名 □
卒業後の進路について、各項目の指示にしたがって回答してください。	
1 進学希望	
次の①、②については、選択肢の中から希望の種別・系統選び記号で答える。 ③については志望する学校名・学部名・学科名を記入する。	
3 進路希望に関する自分の考え	
① 現在の進路希望について	
ア かなり希望が固まっている	イ ある程度希望が固まっている
ウ 少し迷っている部分もある	エ かなり迷っている部分がある
ウ、エを選んだ人は、「迷っている部分」について具体的に書いてください。	
☆ (記述例) <u>希望した医療系の分野の学問や仕事に向いているか心配である。</u>	
② 実現の可能性について	
ア かなり可能性があると思う	イ やや可能性があると思う
ウ やや厳しいと思う	エ かなり課題が多く厳しいと思う
③ 将来、高校を卒業してから仕事に就くまでをイメージして、その道すじを簡潔に書いてください。また、そのように考える理由も書いてください。	
☆ (記述例) <u>外国語系の学部に進学して、その後外資系の企業に就職したい。なぜなら自分の活動する範囲を、県内や日本国内だけに限定したくないから。</u>	
※ 進路について聞きたいことがあれば書いてください。	

具体的な希望先とあわせてガイダンスや個別のフォローの必要度を把握する。

将来設計の能力や態度を把握する。

② 集計と個別のフォロー

	種別	類型 (コース)	現在の進路希望について	実現の可能性について	仕事に就くまでの道筋
生徒A	国公立大学	文系	かなり迷っている部分がある。	やや可能性があると思う。	とりあえず大学に進学する。 →大学で資格をとる。 →もっている資格を生かして就職する。
生徒B	各種学校 専門学校	理容・美容、 調理系	すこし迷っている部分がある。	やや難しいと思う。	専門学校へ行き、メイクなどを学び、その後、化粧品売り場などで働く。 なぜなら、お化粧するのが小さい頃からあこがれていたから。
生徒C	国公立大学	理系	かなり迷っている部分がある。	課題がかなり多く、厳しいと思う。	行きたい学部に進学して、就職したい。

○ ガイダンスのポイント

- ・大学で学ぶことと専門学校で学ぶことの違いを理解するための情報が得られていない。→進学説明会のテーマや内容の設定
- ・自分の将来設計のモデルとなる存在が希薄である。
→先輩に学ぶ(卒業生との懇談会のテーマ設定) (生徒A)
- ・現実的職業の理解が不足しがちである。(生徒A)
- ・あこがれだけで選択しがちである。(生徒B)
→進学説明会のテーマや内容の設定

○ カウンセリングのポイント

- ・学力等の課題から実現の難しい進路希望の場合、フォローしながら、自己を生かす進路の分野を探索しようとする意欲を喚起しなければならない。グループ・カウンセリングなど、方法の工夫が必要である。(生徒C)。

事例から学ぶこと

日々の指導の中では、それぞれの教員が行う評価や現状分析だけで終わってしまうことがあります。また、学級単位の集計結果にばかり目が向き、個々の生徒の変容を見落とすこともあります。そこで、アンケートや調査などの項目を少し工夫するだけでも、一人一人の発達の課題が浮き彫りになると考えられます。ガイダンスとカウンセリングの機能を生かすためには、生徒一人一人の活動を通して現状を把握することや評価可能なデータを得ることが大切です。

また、こうした現状把握や評価の結果は、できるだけ指導にあたる教員同士で共有することが大切です。それにより、学級などの単位か個別かの二者択一の指導形態だけでなく、多様なグループを編成してガイダンスやカウンセリングを試みることができます。

○ 勤労観や職業観を育む学習プログラムの枠組み(例) - 職業的(進路)発達にかかわる諸能力の育成の視点から

国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の勤労観や職業観を育む教育の推進について(調査研究報告書、平成14年11月)」より

		小 学 校			
		低学年	中学年	高学年	
職業的(進路)発達課題		進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期			
○職業的(進路)発達課題(小～高等学校段階) 各発達段階において達成しておくべき課題を進路・職業の選択能力及び将来の職業人として必要な資質の形成という側面からとらえたもの		<ul style="list-style-type: none"> ・自己及び他者への積極的関心の形成・発展 ・身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 ・夢や希望、憧れる自己イメージの獲得 ・勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 			
職業的(進路)発達に関わる能力		職業的(進路)発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度			
領域	領域説明	能力説明			
人間関係形成能力	<p>他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。</p>	<p>【自他の理解能力】</p> <p>自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力</p>	<p>自分の好きなことや嫌なことをはっきり言う。</p> <p>友達と仲良く遊び、助け合う。</p> <p>お世話になった人などに感謝し親切にする。</p>	<p>自分のよいところを見付ける。</p> <p>友達のよいところを認め、励まし合う。</p> <p>自分の生活を支えている人に感謝する。</p>	<p>自分の長所や欠点に気付き、自分らしさを發揮する。</p> <p>話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。</p>
		<p>【コミュニケーション能力】</p> <p>多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力</p>	<p>あいさつや返事をする。</p> <p>「ありがとう」や「ごめんなさい」を言う。</p> <p>自分の考えをみんなの前で話す。</p>	<p>自分の意見や気持ちを分かりやすく表現する。</p> <p>友達の気持ちや考えを理解しようとする。</p> <p>友達と協力して、学習や活動に取り組む。</p>	<p>思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動しようとする。</p> <p>異年齢集団の活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとする。</p>
情報活用能力	<p>学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。</p>	<p>【情報収集・探索能力】</p> <p>進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力</p>	<p>身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心を持つ。</p>	<p>いろいろな職業や生き方があることが分かる。</p> <p>分からないことを、図鑑などで調べたり、質問したりする。</p>	<p>身近な産業・産業の様子やその変化が分かる。</p> <p>自分に必要な情報を探す。</p> <p>気付いたこと、分かったことや個人・グループでまとめたことを発表する。</p>
		<p>【職業理解能力】</p> <p>様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力</p>	<p>係や当番の活動に取り組み、それらの大切さが分かる。</p>	<p>係や当番活動に積極的に関わる。</p> <p>働くことの楽しさが分かる。</p>	<p>施設・職場見学等を通じ、働くことの大切さや苦勞が分かる。</p> <p>学んだり体験したりしたこと、生活や職業との関連を考える。</p>
将来設計能力	<p>夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。</p>	<p>【役割把握・認識能力】</p> <p>生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力</p>	<p>家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。</p>	<p>互いの役割や役割分担の必要性が分かる。</p> <p>日常生活や学習と将来の生き方との関係に気付く。</p>	<p>社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。</p> <p>仕事における役割の関連性や変化に気付く。</p>
		<p>【計画実行能力】</p> <p>目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力</p>	<p>作業の準備や片付けをする。</p> <p>決められた時間やきまりを守ろうとする。</p>	<p>将来の夢や希望を持つ。</p> <p>計画づくりの必要性に気付き、作業の手順が分かる。</p> <p>学習等の計画を立てる。</p>	<p>将来のことを考える大切さが分かる。</p> <p>憧れとする職業を持ち、今、しなければならぬことを考える。</p>
意思決定能力	<p>自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。</p>	<p>【選択能力】</p> <p>様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力</p>	<p>自分の好きなもの、大切なものを持つ。</p> <p>学校でしてよいことと悪いことがあることが分かる。</p>	<p>自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。</p> <p>してはいけないことが分かり、自制する。</p>	<p>係活動などで自分のやりたい係、やれそうな係を選ぶ。</p> <p>教師や保護者に自分の悩みや葛藤を話す。</p>
		<p>【課題解決能力】</p> <p>意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適應するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力</p>	<p>自分のことは自分で行おうとする。</p>	<p>自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。</p> <p>自分の力で課題を解決しようと努力する。</p>	<p>生活や学習上の課題を見付け、自分の力で解決しようとする。</p> <p>将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする。</p>

* 太字は、「勤労観や職業観の育成」との関連が強いものを示す

		中 学 校	高 等 学 校
職業的(進路)発達課題		現実的探索と暫定的選択の時期	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期
○職業的(進路)発達課題(小～高等学校段階) 各発達段階において達成しておくべき課題を進路・職業の選択能力及び将来の職業人として必要な資質の形成という側面からとらえたもの		<ul style="list-style-type: none"> 肯定的自己理解と自己有用感の獲得 興味・関心等に基づく勤労観や職業観の形成 進路計画の立案と暫定的選択 生き方や進路に関する現実的探索 	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解の深化と自己受容 選択基準としての勤労観や職業観の確立 将来設計の立案と社会的移行の準備 進路の現実吟味と試行的参加
職業的(進路)発達に関わる能力		職業的(進路)発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度	
領域	領域説明	能力説明	
人間関係形成能力	<p>他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。</p> <p>【自他の理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力</p>	<p>自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重する。</p> <p>自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる。</p> <p>自分の悩みを話せる人を持つ。</p>	<p>自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。</p> <p>他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる。</p> <p>互いに支え合い分かり合える友人を得る。</p>
	<p>【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力</p>	<p>他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。</p> <p>人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。</p> <p>リーダーとフォロワーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をする。</p> <p>新しい環境や人間関係に適応する。</p>	<p>自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解する。</p> <p>異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。</p> <p>リーダー・フォロアシップを発揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める。</p> <p>新しい環境や人間関係を生かす。</p>
情報活用能力	<p>学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。</p> <p>【情報収集・探索能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力</p>	<p>産業・経済等の変化に伴う職業や仕事の変化のありましを理解する。</p> <p>上級学校・学科等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴の概略が分かる。</p> <p>生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する。</p> <p>必要に応じ、獲得した情報に創意工夫を加え、提示、発表、発信する。</p>	<p>卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。</p> <p>就職後の学習の機会や上級学校卒業後の就職等に関する情報を探索する。</p> <p>職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などが分かる。</p> <p>調べたことなどを自分の考えを交え、各種メディアを通して発表・発信する。</p>
	<p>【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力</p>	<p>将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。</p> <p>体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。</p> <p>係・委員会活動や職場体験等で得たことを、以後の学習や選択に生かす。</p>	<p>就業等の社会参加や上級学校での学習等に関する探索的・試行的な体験に取り組む。</p> <p>社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。</p> <p>多様な勤労観や職業観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。</p>
将来設計能力	<p>夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。</p> <p>【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力</p>	<p>自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための役割分担やその方法等が分かる。</p> <p>日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。</p> <p>様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。</p>	<p>学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。</p> <p>ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する。</p> <p>将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。</p>
	<p>【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力</p>	<p>将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。</p> <p>進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する。</p> <p>将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。</p>	<p>生きがい・やりがいがあり自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える。</p> <p>職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する。</p> <p>将来設計、進路計画の見直し再検討を行い、その実現に取り組む。</p>
意思決定能力	<p>自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。</p> <p>【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力</p>	<p>自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。</p> <p>選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことなどを理解する。</p> <p>教師や保護者と相談しながら、当面の進路を選択し、その結果を受け入れる。</p>	<p>選択の基準となる自分なりの価値観、勤労観や職業観を持つ。</p> <p>多様な選択肢の中から、自己の意志と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する。</p> <p>進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、実現可能性について検討する。</p> <p>選択結果を受容し、決定に伴う責任を果たす。</p>
	<p>【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力</p>	<p>学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面に生かす。</p> <p>よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見出ししていくことの大切さを理解する。</p> <p>課題に積極的に取り組み、主体的に解決していくこととする。</p>	<p>将来設計、進路希望の実現を目指して、課題を設定し、その解決に取り組む。</p> <p>自分を生かし役割を果たしていく上での様々な課題とその解決策について検討する。</p> <p>理想と現実との葛藤経験等を通し、様々な困難を克服するスキルを身に付ける。</p>